

サポセン mail

No.165.2016.12.23発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区菅田町 2-25-78 7E-ル菅田 TEL&FAX 043-308-4436
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/

中学生グループ会

編み物をしよう！パートⅡ



12月4日土気公民館にて、前回に引き続き中学生グループ会は、編み物をしよう！でした。中3のみんなは塾のテストと重なってしまい、中1生5名が参加してくれました。隣の部屋からはクリスマス会をしている様子で、楽しそうな音楽や子どもたちの歌声が聞こえる中、私たちは静かに編み物に没頭しました。

前回の編み物でハマってしまったのか、今回二回目をやることになったのは中学生の希望です。教えて下さるのも前回の講師、佐藤まりさん、人に教えたりするのはとても緊張します、と言って挨拶して下さいましたが、一人一人にとっても丁寧に優しく教えて下さいました。

たくさんの毛糸の中から好きな色を選んで、今回もアクリルたわしを中心に教わりました。編み方の説明や編み図を見ただけでは初心者にはよくわからないので、まりさんに一つ一つの工程を教えて頂きながら理解していき、編み進めました。

今回編み物は初参加ですが、さきちゃんは普段からしているとの事で、目にもとまらぬ速さでかぎ針を動かして綺麗なモチーフを編んでいきます。前回参加した子は思い出しながらゆっくりと、また今回初めてというめいちゃんは、まりさんや周りの友達に見てもらいながら基本の編み方の反復練習と、それぞれのペースで進めていきました。みんな集中していたので時間があっという間に過ぎていきました。

編み物は根気のいる作業ですが、慣れてしまえば頭で考えなくても手が勝手に動いて進めることが出来るし、完成した時は達成感があって良いと思います。また手を動かしながら周りの人とお喋りすることも出来るので、それも楽しいと思いました。

子どものうちに身に付けたことは忘れにくく、一生の宝となる場合もあります。中学生が編み物をしている姿を見て、これからも趣味として続けたり、将来に役立ててもらえたら良いな、と感じたグループ会でした。 (記 すあま)



秋晴れの校庭を走りぬけた

忍者修行!

今回はアフタフバーバンの平川恭子さん(忍者・枝豆もぐもぐ)のブログの文章が素敵だったので、そのままご紹介します。



11月6日(日)、千葉市は緑区での忍者修行でした。

舞台は大木戸小学校。

いい具合に見通せて、いい具合に死角がある。

と〜っても広い校庭に、手頃な中庭。

普段はだれも足を踏み入れることがなさそうな体育館裏に、银杏かおるイチョウ並木・・・。



なんとも魅力的な小学校でのからくり屋敷作りをしました。自分たちで秘密のアジトになりそうな場所をきめ、そこからからくりを作り、巻き物を隠し、からくり屋敷へと変身させていくのです。

あっという間に木々が茂る場所アジトに決めた天道場に対し、学校の敷地内を隅から隅まで行ったり来たり走り回りたまたま自分たちが蜘蛛の巣に引っかかりそうになった場

所をアジトに決めた風道場。

どちらの作るからくり屋敷にも、子どもたちの「こうしてみたい!」という思いと、大人たちの「こうしたら面白そう!」という思いが溢れていました。

体育館の導入での『みる・きく修行』の際、思わず子どもより先に答えてしまったお母さん、分かった嬉しさと同時に、思わず誰よりも先に答えてしまった自分にはっとして「ごめんなさい」と苦笑い・・・。

でもそのことがどれだけ子どもたちの気持ちを開放したことでしょう。

誰かが夢中になるって、自分と同じことに同じだけ楽しんでるって、こんなにも空気を柔らかくするんだな〜と



思いました。



導入が終わって、いよいよ外の修行へ移動するとき、子どもを送ってちょっとみて帰るつもりだったお母さんたちが「なんか、これ面白いね〜」、「もうちょっとみたいね〜」と会話しているのをキャッチした私たちバーバンメンバー。「え?!じゃあ、おとなだけのチーム作って一緒に遊びましょう!」と誘ってみたら、ちょっと恥ずかしいそうにし

ながらも参加することに！急遽できた『さんま』チームを子どもたちは嬉しそうに受け入れていました。我が子がどんな風に遊んでいるか、喉が乾いているんじゃないか、寒くなってきて上着を来たほうがいいんじゃないかと修行している周りで心配そうにみていたお父さん、からくり作りがはじまると、アジトの外側から「おい、おい。」とわが子に話しかけます。



「ほら、ちょっとテープ貸してみろ！こうするんだよ！！」と葉っぱの裏に巻き物をつけて見せるのです。

思いついたんですね、面白そうなことが。湧いてきたんですね、やってみたいことが。息子よりもやんちゃな顔して巻き物を隠していました。

その姿に、「おれの父ちゃんすごいこと思いついただろう！」って得意気の息子くんでした。

今回依頼してくださったNPO法人緑区サポートセンターの安藤さんがおっしゃっていました。

子どもとおとなが一緒にあそぶ中で、子どもたちにはたくさんの素敵な大人と出会うと欲しい、そして大人たちには子どもたちの魅力にしっかり気づいて欲しい、と・・・。

からくりづくりをしながらのお母さんたちのつぶやきです。

「子どもの発想ってすごいね～」「まだ走るの～！よく動けるね～」



前半、大人を試すような言葉をバシバシ投げかけていた小3の男の子が、自分が取れなくなった巻き物を体を張ってとってくれた大人にたいして「やまじい、すげえ～！」とこぼれた素直な言葉・・・。

外巻きで見ていた大人たちが一緒に遊びだし、大人の夢中になる姿を見事に子どもたちにみせてくれました。

自分たちに支持をし、言うことを聞かそうとする関わりではなく、横に肩並べ一緒に頭をひねり、一緒に動く。

く。

そんなとき、大人という塊でなく、〇〇さんという一人の人間が浮かび上がってきたように思います。そして、そこにいる大人一人一人が様々な魅力をはなってくれていたように思うのです。

素敵な大人に出会うって、こういうことですよね・・・。

子どもたちが、納得するまで走り回り、話し合ってもいけないのにみんなで合致する点を見つけ、そして表現の仕方に変化が見えた時、大人たちは子ども中にある変わる力と折りあう力と



決断する力をみたのではないのでしょうか。子どもたちの中にある力に出会った時、きっと大人たちは子どもたちの魅力をヒシヒシと感じていたことだろうと思うのです。

安藤さんが私たちを呼んでくださった想いに答えられたかどうかわかるのは、まだまだ先のことだとは思いますが、確かなものは大人たちからも、子どもたちからも口々に出ていた「おもしろかったあ〜」「次はいつ?」「また会えるかな〜」「来年もやりたい!」という言葉たち。未来に向かうエネルギー、未来を創り出す力だと思うのです。



平川恭子（えだまめもぐもぐ）

今回は参加者が定員の40名にはなりませんでしたが、「もうこういう活動は必要とされていないのかな?」と悲しい気持ちにもなりました。でも「最近活動をしていても難しいことが多い。でも15~6歳の少年の事件がいろいろあり、今、目の前の子ども達を数年後、加害者にも被害者にも絶対したくない。だから頑張りつづける。」というアフターバーンの熱い言葉と覚悟に触れ、心動かされるものがありました。（記 安藤）



【日 程】 2017年3月19日（日）・20日（月・祝）

【場 所】 19日 あすみが丘バースモール

20日 あすみが丘プラザ

小学生以上は店長になれます!

【参加方法】 当日自由参加

店長の申し込みお待ちしております!

【参加費】 1日400円（材料費・保険代）

店長募集中